

要因とは!?

川底に異変をもたらす

Case 01

人工林の荒廃

林内は暗く、下草も生えない。

戦後の高度経済成長期における木材需要の高まりにより、スギやヒノキの針葉樹が植林されました。その後の木材価格の低迷、林業従事者の減少により、植林された山の多くは、適切な管理が行き届かず、山に光が入らなくなっています。

荒廃した人工林は、一本一本の木が細く、根も大きく張ることができないため、非常に崩れやすく、山の保水力も低下します。

雨は山肌を洗い流し、保水力の限界を超えた時、一気に崩れ、大量の土砂が川へと流れ出てしまうのです。



Case 02 川の濁水

茶色い濁り水で、川底は見えない。

皆さんがきれいだと感じる川は、おそらく透き通った水が流れる川ではないでしょうか。それは観光客も同様で、青く輝く四万十川を一目見ようと、毎年、県内外から多くの観光客が訪れています。

しかし、一年を通して輝く四万十川を見られるわけではありません。

特に、田植えや代かきが始まる4月から5月にかけては、水田の濁り水が、下流の四万十川に流れ込むことによって、川が茶色く濁ります。その濁水が、数日間続くことも珍しいことではありません。



四万十川に異変をもたらすその他の要因



Case 03 生活排水

台所や風呂・トイレなど日常生活から出される生活排水。生活排水が川に直接流れ込むと、それに含まれる有機物や汚濁物質が増え、自然の浄化能力を超えると、汚れが分解されなくなり、水質の悪化を招きます。



Case 04 ゴミの不法投棄

大型家電や建築廃材などの不法投棄に加え、近年では一般の家庭ゴミやビニール袋に弁当の空き箱や空き缶をまとめて入れたゴミなども見受けられています。



Case 05 佐賀取水堰・津賀ダムの影響

取水堰やダムには、治水・発電といった重要な役割があります。その一方で、ダムの上流域では土砂の堆積、取水堰の下流域では水温の上昇や水量の減少など、川に大きな影響を与えています。



Case 06 カワウの急増(食害)

カワウは魚食性の鳥で、群れで行動する特徴があります。1日に約500gの川魚を食べると推定されており、一羽のカワウからアユの稚魚50匹が出てきたこともあるそうです。

取り組み 01

七里小学校 四万十川水生生物調査

捕まえた水生生物から専用のスコア表を使用して、水質チェック



地域を流れる勝賀野川について語ってくれた5年生の皆さん



身近な川に入り、触れる大切さ

七里小学校では、毎年各学年に応じた環境学習を行っています。今回は5年生の皆さんに、学校近くを流れる勝賀野川で、昨年度実施した「水生生物調査」についてお伺いしてきました。

6月と9月の2回実施したもので、生息する水生生物から水のきれいさや環境の豊かさについて学ぶ授業となっています。

授業の感想を聞いてみたところ、「小さい魚はおったけど、大きい魚はおらんかった」「川がきれいだな」「川がきれいなのは川の流れが掃除しているから」など、学んだことを教えてくれました。

最後に、この学習を通して町の大人たちに伝えたいことはありますかと尋ねると、「川にゴミを捨てないでほしい」と一言。「これから先も、みんなが四万十川で遊べるように、ずっとずっときれいな川であってほしい」と、その思いを話してくれました。

取り組み 02

四万十町商工会女性部大正支部 「廃油せっけん」作り

「汚れも落ちて、川は汚さない」活動

四万十川の清流を守ろうと始まったのが、不要になった天ぷら油で廃油せっけんを作る活動です。町商工会女性部大正支部が始めたこの活動、今年で何と35年目。「小さな取り組みですが、長く続けることに意味があるんです」と、笑顔で話をしてくれたのは、当初からのメンバーの武内富子さん。「シャツの襟や袖、靴下や作業着など、頑固な汚れも落ちるんです」。武内さんも、廃油せっけん作りを始めて以降、市販の台所洗剤や洗濯洗剤は購入しなくなり、体を洗う以外は、全てこの廃油せっけんを使用しているそうです。

200gの廃油せっけんが入ったビニール袋には、「清流を子孫に残そう」と表記されているのが印象的で、この廃油せっけんは、町商工会大正支部、または道の駅四万十大正で購入することができます。



武内 富子さん



1. 水や酢などに大正地域で不要になった天ぷら油を混ぜ合わせる。
2. 牛乳パックに流し込んで約1か月間固める。
3. メンバーで袋詰め。
4. さらに1か月間完全に光を当てて干す。
5. 約2～3か月かけて完成する「廃油せっけん」。

お問い合わせ先 四万十町商工会大正支部 ☎27,0238

それぞれの立場で四万十川を考える取り組み!